

川嶋昭二： 外国産コンブ目植物の漂着記録 (2). オニワカメについて Shoji KAWASHIMA : Drifting records of alien species of the Laminariales (2). *Alaria fistulosa* POSTELS et RUPRECHT.

(2) *Alaria fistulosa* POSTELS et RUPRECHT オニワカメ

オニワカメはアラスカ南東部からアリューシャン列島を経て千島列島エトロフ島までの北太平洋沿岸に分布するが、さらにオホーツク海を距てて宗谷海峡の二丈岩にも生育している (WIDDOWSON 1971)。

葉体は全長 25 m に達し、日本周辺では最大の海藻として知られるが、*Alaria* 属の他種と違って中肋が太く、中空で、竹のような隔壁があることや、成実葉または附着器の形などから、たとえ細片でもそれと見分けられる明瞭な特徴をもっている。

この海藻は北海道から手のとどくような近くに分布しながら、今のところ北海道沿岸では利尻島のコンブ養殖用フロートに着生していた例 (山本・鳥居 1983)

を除き、自生地は全く発見されていない。しかし、宮部 (1902) が北見地方への漂着をのべているように流れ藻としては古くから知られている。岡村 (1936) が産地としている釧路も漂着した地方を示すと思われる。ただ、宮部も岡村も実際の地点は示していない。Fig. 1 には、これらの文献以後に発表された漂着地 (○印) と、著者の集めた新たな漂着地 (●印) をそれぞれの漂着年月日とともに示した。これらのうち、他から得た情報はそれぞれ本文中に記してある。

この図によると、オホーツク海北部の枝幸から道東太平洋の床潭 (厚岸町) の間で、1944年から1985年までに11回の漂着記録があり、その多くは6~8月に集中している。しかし実際はこれよりはるかに多く、季節を問わず発見できると思われる。オホーツク海沿岸

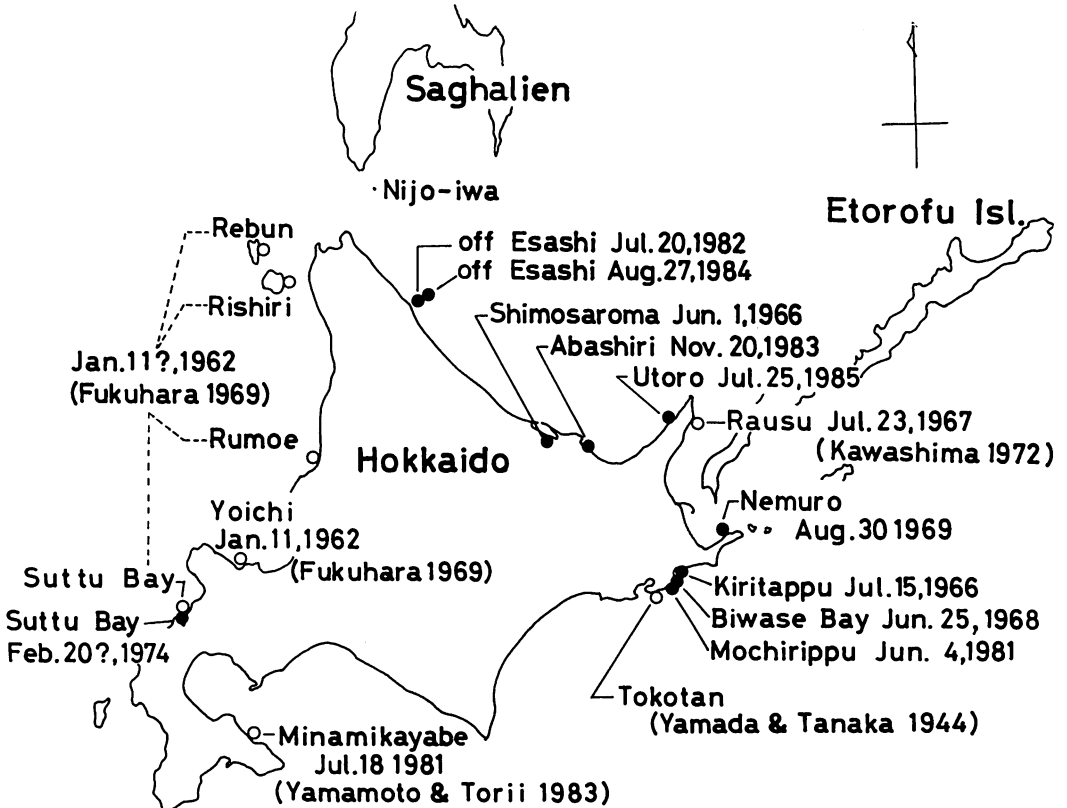


Fig. 1. A map of Hokkaido showing localities where *Alaria fistulosa* were drifted ashore. ○, already known locality by the past literature; ●, new locality by the author.

に漂着するものは二丈岩周辺から宗谷暖流に乗って、また道東太平洋沿岸で発見されるものは千島から親潮に運ばれてくるものであろう。ちなみに漂着の南端記録は渡島管内南茅部町である (山本・鳥居 1983)。

これにくらべて日本海沿岸への漂着は今のところ2回しか記録がない。しかし、福原 (1969) が報告した1962年1月11日前後の漂着例は、大量の流れ藻として利尻、礼文両島から留萌、余市、寿都の各地にまで打ち上げられており、これほど広範囲に、ほぼ同時に漂着した例は他に記録がない。また1974年2月20日頃に再び寿都湾沿岸に打ち上げられた時も、かなりの量であったらしい (北海道新聞 1974年2月26日付)。福原も述べているように、対島暖流の北上するこれらの沿岸に北方から大量の流れ藻が漂着するのは珍らしいことである。しかし、それが比較的まれな年に、また厳冬期にだけ記録されることは海流よりもむしろ、日本海に大しけをもたらす大陸からの季節風 (北西風) の

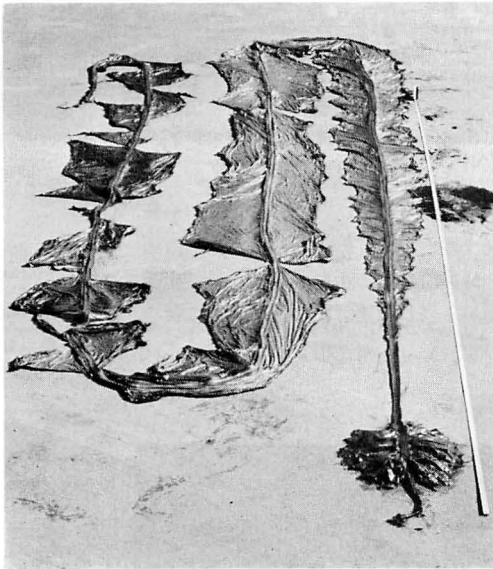


Fig. 2. A driftage of *Alaria fistulosa* at Esashi (枝幸), the Okhotsk coast of Hokkaido, July 20, 1983. (14.7 m in length)

影響かも知れない。

漂着する藻体の大部分はオホーツク海や道東太平洋ではおそらく2年目以上の大きなものであるが、破損が烈しくて中肋だけ、あるいはわずかに葉片が残っていたり、成実葉や附着器も失われていることが多い。そのような中で、Fig. 2 に示した藻体 (1982年7月20日、宗谷管内枝幸沖、鳥居茂樹氏提供) のように全長 14.7 m、葉幅 60 cm を越える新鮮、かつ完全なものが多数発見された例もある。また藻体が小さな例としては同じ枝幸沖で1984年8月27日に発見された漂流中の *Laminaria* sp. の茎に着生していた 1-35 cm の20個体ほどの幼体 (四ツ屋義則氏提供) があり、中肋の隔壁形成を知る上で貴重な標本である。福原 (1969) の報じた余市に漂着した藻体が 1.5-2 m くらいの若いものであったのは、おそらく前年発生のものであると考えられる。

情報と標本の収集に協力いただいた鳥居茂樹氏と四ツ屋義則氏にお礼申し上げる。

引用文献

- 福原英司 1969. 北海道の日本海沿岸に打ち上げられたオニワカメについて. 藻類 17: 126-127.
 川嶋昭二 1972. 漂着するコンブ. 281-285頁. 釧路のさかなと漁業. 釧路叢書 13, 釧路市.
 宮部金吾 1902. 昆布科. 1-62頁. 北海道水産調査報告. 第三卷, 昆布採取業. 北海道庁殖民部水産課.
 岡村金太郎 1936. 日本海藻誌. 内田老鶴圃, 東京.
 WIDDOWSON, T. W. 1971. A taxonomic revision of the genus *Alaria* Greville. Syesis 4: 11-49.
 YAMADA and TANAKA 1944. Marine Algae in the Vicinity of the Akkeshi Marine Biological Station, Sci. Pap. Inst. Alg. Res., Fac. Sci., Hokkaido Imp. Univ. 3(1): 47-77.
 山本弘敏・鳥居茂樹 1983. エナガオニコンブ, オニワカメ, フウチョウワカメの新産地. 藻類 31: 102-103.

(042 函館市湯川町1丁目 2-66 北海道立函館水産試験場)